

小学校教員をめざす文系学生のための理科講座

「明日の先生へおくる 理科のコツ」

大学パートナーシップの学生を対象に、国立科学博物館の展示や資料等の学習資源を活用して、小学校教員を目指す文系学生の科学リテラシーを向上させる講座を試行的に実施する。

このプログラムにより、成人の科学リテラシーの直接的な向上を図るとともに、将来教員としての職業活動を通じて、次世代の国民の科学リテラシー向上に資することが期待される。

期日： 2009年12月13日(日)～12月28日(月)の 土日・祝日を中心に実施
延7日間

場所： 上野本館（12月20日のみ新宿分館）

対象： 理科を専攻していない小学校教員養成課程学生
（来年度小学校教員に内定している学生、大学パートナーシップ入会大学学生を優先）

人数： 15名程度

受講料： 本年度は試行のため無料
但し、実験材料・テキスト代等の実費として5,000円を徴収

●プログラムの特色

文系の学生の科学的素養を向上させ、成人の科学リテラシーの向上に直接資すると共に、科学的リテラシーを身に付けた教員が小学校現場で指導にあたることで、将来的な国民の科学リテラシーの向上にも間接的に資することができる。

●プログラムの構成

このプログラムで想定している育てたい小学校教員のイメージに基づく主な活動を下に示す。ここでは教職免許法の「教科に関する科目」と「教職に関する科目」における、「何を教えるか」と「どのようにして教えるか」の2つの視点の有機的な連携をはかり、科学に対する知識・技術の向上を通して、理科の指導力の向上が目指されている。

- ① 「自信を持って、子どもたちに理科の指導ができる人」→科学の専門家の指導のもと、小学校理科でも扱う器具や溶液を用いた実験・観察を経験することを通じて、理科を教えるのに必要な科学的な考え方や実験技能等の基本を身に付ける。
- ② 「自然界の不思議さに気づき、その感動を子どもたちに伝えられる人」→酵母を用いた実験や天体観測など身近な素材を用いた活動を体験した後、模擬授業に挑戦する。
- ③ 「自然や社会に対して興味・関心を示し、継続的に自ら学ぶことができる人」→博物館の活動を深く理解することを通じて、外部の学習資源を活用する能力と気持ちを身に付ける。

●プログラムの流れ

